

4. 弥生時代

1. どうして弥生時代に米づくりが広まったの？

日本にはお米にかかわる言葉は実にたくさんあります。例をあげれば、脱穀していない米を粉、脱穀しただけの米を玄米、玄米をついたのが白米、普通の米が粳、粘りのある米がもち米、白米を炊いたのが飯、水気を多くして炊いたのが粥、などです。しかし、これらを英語で言えばライスの一語です。言葉が多いということは、それがその国の重要な文化であるということです。

稲が中国の長江の中・下流域で栽培されるようになったのは今から約8,000年ほど前です。その稲と栽培技術が大陸や朝鮮半島を経て九州北部に伝えられたのが今から約2,400～2,500年前の縄文時代晩期から弥生時代初期にかけてのころです。そして米づくりにかかわる文化は大陸や朝鮮半島からやってきた人々によって伝えられました。米づくりのはじまりによって、人々は台地などに集落をつくり、その付近に広がる水の得やすい平地や低地などに水田をつくりました。



稲作の伝来

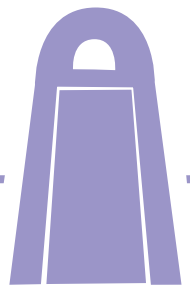
九州北部に伝えられた米づくりの技術は、今から約2,300年前ころには近畿地方にまで広がりました。奈良県田原本町の唐古・鍵遺跡からもいろいろ農具が発掘されています。さらに関東や東北地方へも急速に広がっていきました。



唐古・鍵遺跡から出土した稲束



炭化した米

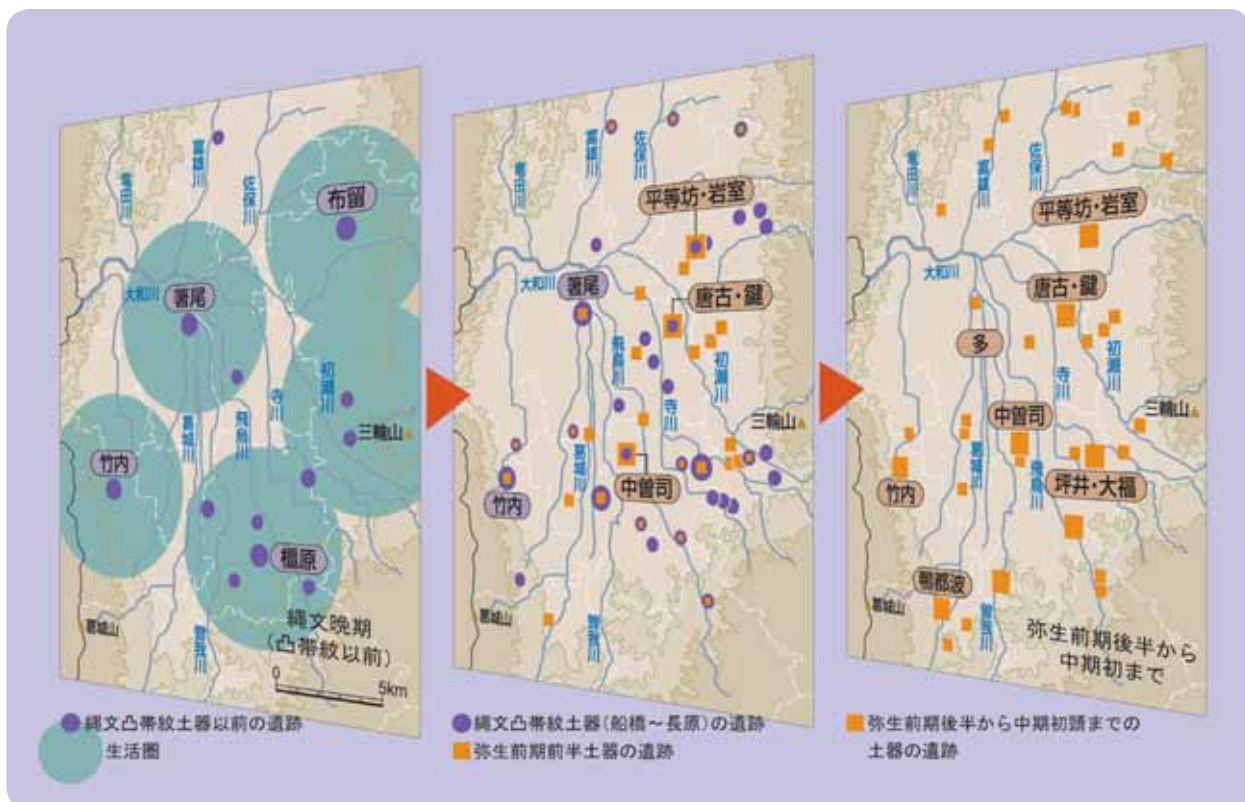


人々が米づくりをはじめた理由

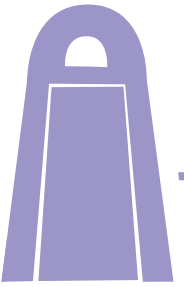
米にかかわる言葉に「一粒万倍^{いちりゅうまんばい}」という言葉があります。これは一粒が一万粒になるということで、米のことをあらわしています。つまり、種を一粒まいて育てたら一万粒も収穫^{しゅうかく}できる、一粒が一万粒になるということです。これは言葉上のことだけですが、それぐらい米は多くの収穫量が期待できる穀類だということを表現しています。ちなみに小麦は日当たりのよい肥えた土地でも一粒から八〜十粒くらいにしか収穫できません。世界の穀類のなかで、米ほど効率^{こうりつ}のいいものはないといえます。さらに、米は栄養価^{えいようか}も非常に高く、比較的長期^{ひかくてき}の保存も可能です。このような理由から米づくりは急速に各地に広がったのです。



赤米と中国の長粒米



奈良盆地の縄文時代晩期から弥生時代前期の遺跡のうつりかわり



5. 縄文土器は黒っぽいのに弥生土器はなぜ明るい色をしているの？

縄文土器の名称は土器の文様からつけられたのに対して、弥生土器の名称は地名からつけられています。1884年、現在の東京都文京区弥生町の貝塚から発見された土器が、それまでに発見されていた縄文土器と異なる特徴をもっていたため弥生土器と命名されました。弥生土器は縄文土器と比べると、「かたく」「薄く」「文様がすくなく」「赤っぽい」ものが多いという特徴があります。「かたく」「赤っぽい」という特徴は、土器を火で焼くときの温度に関係します。低い温度で焼く縄文土器に対して高い温度で焼くことにより、土器はかたく引きしまり、色も赤っぽくなります。

【弥生土器の種類】

- 壺 ……水や食料の貯蔵用の土器
- 甕 ……米などの煮炊き用の土器
- 鉢 ……食料の盛りつけ用の土器
- 高 坏 ……台のついた土器で神へのそなえ物の盛りつけ用



① 壺



③ 高坏



② 甕



④ 器台



⑤ 鉢

6. どうして武器や農具には鉄を使い、祭りの道具には青銅を使うの？

弥生時代には中国と朝鮮半島から鉄、青銅などの金属が伝来しました。中国ではまず青銅器がつくられ、その後、鉄器がつくられました。しかし、弥生時代の日本には青銅器と鉄器が同時期に伝えられました。

青銅は、銅とすず、鉛などの合金です。青銅で作られた代表的な道具には銅鐸や武器などがあります。銅鐸は手にもってふって鳴らしたり、つり下げて鳴らしたりします。武器には銅剣、銅矛、銅戈などがあります。弥生時代の人々はこれらの青銅器を儀式的な祭りの道具として使うようになりまし



銅鐸のつくりかた

鉄は青銅より非常にかたく鋭いため、木を切る斧や武器に適しています。このため武器は鉄でつくられるようになりました。鋤や鋤などの農耕具の本体は木でつくられていましたが、耕しやすいように、かたい鉄製の刃先をつけたものがつくられるようになりました。



鉄製の斧



奈良県で出土した銅鐸